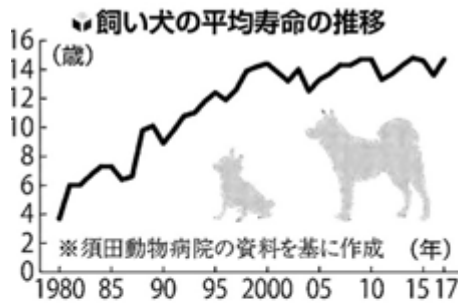


所属

氏名



飼い主が世話をできなくなった老犬などを預かる施設の初の業界団体「老犬ホーム協会」(仮称)が、2月に設立される。人間も犬も長寿になり、高齢者が老犬を介護する「老老介護」が増え、施設の需要が高まっている。協会では飼育環境などのルールを定め、飼育の質を担保する役割を果たしたい考えだ。

協会を設立するのは、熊本県菊池市の「老犬ホームトップ」、東京都大田区の「東京・ペットホーム」など5都府県6施設。2月6日に設立総会を開き、代表

愛犬に安心の介護を



には「トップ」社長の緒方心さん(41)が就く。

老犬ホームは、犬が認知症になったり、飼い主の体力が衰え世話をできなくなったたりした際に利用される。住宅地や郊外にあり、預かる犬は10匹前後から100匹を超える施設もある。死ぬまで面倒を見る「一生預かり」サービスもある。

この3〜4年で急増し、現在、全国に150施設前後あるとみられる。増加の背景には、飼い犬の高齢化がある。須田動物病院(東

ルール作り 業界団体設立

延びる寿命 増える利用

京都日野市)の独自調査では、1980年の飼い犬の平均寿命は3・7歳だったが、2017年は14・7歳まで延びた。ペットフードの普及による栄養バランスの向上や動物医療の進歩などが理由だ。

一方、施設の関係者によると、介護の対応の悪さや面会拒否などのトラブルも起きている。施設の増加に伴い、狭いスペースや不衛生な環境で飼育するなどの問題も懸念されている。

協会は会員施設に対し、法人格の取得や基準に沿った施設整備・人員確保などを義務づける。大地震などで被災した犬や猫の緊急避難所の役割も担う方針だ。

▲目薬を差したり毛をとかしたりして、犬の世話をする老犬ホームの経営者ら(東京都大田区の「東京・ペットホーム」で)

◆飼い主が世話をできなくなった老犬などを預かる施設の初の業界団体が設立されます。背景にはどのような問題があるのでしょうか。

(2018年1月8日 読売新聞朝刊より)

- 【1】最近、需要が高まっている「老犬ホーム」は、どのようなケースで利用される施設ですか。

- 【2】飼い犬の寿命が延びていると指摘されています。具体的な数字や理由を記述してください。

- 【3】業界の課題と、新設される業界団体「老犬ホーム協会」(仮称)に期待されることを400字以内でまとめてください。あなたの考えや意見を加えても結構です。